

2023.06.11.「一体となる パート1」Mac 牧師

天のお父様、私たちはあなたの御前に来て、主よ、すべての重荷をあなたに委ねます。私たちの生活を、祝福下さることに感謝します。今日、メッセージを発信するとき、それが無駄にならないようお願いいたします。主よ、どうか今日、ひとりひとりに、油注ぎをお願いいたします。イエスの御名によって、感謝し、賛美します。アーメン。主を褒めたたえます。どうぞご着席ください。皆さん全員に、おはようございます。J.D.ファラグ牧師の代講です。日曜日の朝の、カルバリーチャペルカネオへの礼拝によろこそ。オンラインで見ている方も歓迎したいと思います。市外から来てくださっている方は、J.D.牧師が不在なので残念ですよね。でも、良い知らせがあります。皆さん全員、J.D.牧師の家でのバーベキューに招待します。一爆笑一 第二礼拝後、私に付いてきてください。詳しく説明します。いやいや、冗談ですよ。一(笑)一でも J.D.はよろしく仰っています。あなたが市外から来ておられるなら、是非詳しくお知らせ下さい。何らかの手段で、あなたとコンタクトを取れるよう、最善を尽くします。ほとんど電子的なものだと思いますが。でも、とりあえずバーベキューのことは聞いておきますからね。一(笑)一

では始める前に、お知らせです。次回の祈り会は、8月1日(火)夜7時からです。7月に祈り会はありませんが。7月の第1火曜日は7月4日だからです。皆さん理由は分かると思いますけど、7月4日(独立記念日)、ここハワイでは、バグダッド以上に、ベトナム以上に、どんなところよりも、きっとかなり華々しいでしょうからね。ですから、次回の祈り会は8月1日です。でも、それというのは、今から8月まであなたが祈らないという意味ではありませんよ。祈り会とは、皆で一緒に祈る会です。でも私たちは、常に祈る必要があります。祈る事、それが私たちの働きです。日曜日の朝は2つの礼拝があり、通常第一礼拝は「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は「説教」です。しかし今日は、J.D.が不在のため、2部構成の学びをします。第一礼拝は、「創世記」に注目頂きたいと思います。聖書の最初の書「創世記」の2章の一節、24節です。可能であれば、ご起立ください。この一節をお読みしてから一緒に祈りましょう。「創世記2章24節」、神の御言葉をお読みします。

一創世記 2:24一

それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

一緒に祈りましょう。主が、今朝の学びを祝福くださるようお願いしましょう。

天のお父様。何よりも、あなたがなさっておられる事これからもなさる事全てに、主よ感謝します。あなたのこの教会のこの聖域(礼拝堂)で私たちに会ってくださり、御言葉で私たちに祝福下さいますように。大変必要な御言葉です。あなたが今朝授けて下さる祝福を受け入れるよう、私たちの心を開き、聞く耳を開き、心に留めれるようしてくださいませように。

主よ、私たちはここにたったひとつのためにいます。それはあなたの御言葉を聞くためです。どうか私たちの心へ語ってください。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。そうなりますように。どうぞご着席ください。今朝、2部構成の学びのタイトルは、「一体となる」です。この教えの中で、真の生ける神によっての結婚で結ばれた一体性について、聖書がどのように語っているのかに迫ろうと思います。結婚していない人、結婚したくない人、未亡人の人は、「自分には関係ない」「自分にはほとんど関係ない」と思う前に、それは大間違いだとお知らせしておきます。私は、あなたが異性をどう見ると同時に、結婚全体を見ることで、クリスチャンの結婚に大きな役割を担っていると信じます。私は、何人かの公言するクリスチャンが、自分の口から、女性を憎んでいる、男性を憎んでいる、のどちらかを言うのを聞いたことがあります。考えてみて下さい。あなたは、神の偉大な創造物の半分を憎んでいます。

同じ口で、あなたは神を愛していると主張する。その神が、私たちが神の似姿に造られました。ですから、あなたはどのような神のことを話しているのですか？ またあなたが、異性を蔑ろにするなら、あなたは結婚を蔑ろにします。神は仰いました。

「主を恐れることは悪を憎むこと。」(箴言 8:13)

皆さんそれを覚えていますよね？ ですから、男性や女性を憎む人は、男性、女性を悪と呼ぶのですか？ そうなのですか？ そうなら、あなたは神を悪と呼んでいます。男性と女性による結婚しか存在しません。結婚に関わる重要な役割を認識しないことが、本来あるべき結婚への敬意や配慮を損なう原因になっているのかもしれませんが。私の見るところ、結婚に対する配慮の要素が全体的に非常に低いです。また、この言わば軽視には、色々理由があることも指摘したいと思います。それが正しいとは限りませんが、人が異性などを軽蔑したりする理由の一端を担っていることは確かです。それを考えて下さい。国のために戦う従軍兵士が、10ヶ月間家を離れ、家に帰ると、妻が妊娠4カ月であることが判明する。裁判での長い争いの末、結局は全てを失い、退職金の半分を失う。彼女はジムと駆け落ち。夫が女性に対して、どのように感じると思いますか？ 長年虐待を受け続けている女性については？ やっとの思いで解決して、彼女の男性に対する考え方はどうです？ これが言い訳ではありませんが、その理由の一端です。しかし、私たちはイエス・キリストの救いに辿り着くと、このような軽蔑の感情克服の為、イエス・キリストに助けを求めねばなりません。なぜなら、その感情は苦味に根ざした問題で、私たちが苦しめているからです。私たちには、心を新たにする使命があります。「エペソ人への手紙4章」29節から32節に記されています。神の御言葉をお読みします。

—エペソ 4:29—

悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

—エペソ 4:30—

神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

—エペソ 4:31—

無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

—エペソ 4:32—

互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

この「一体となる」の教えは、私たちの物理的結婚の枠を超えます。私たち教会は、キリストを頭とする一つの体であるはずだからです。神がご創造された物理的体を蔑ろにして、どうやって霊的な意味で一つの体、一つの肉になれるでしょうか？ 神はどう思われるでしょうか？ 男女の仲になりたくないと言明すること、あるいは、男性や女性、結婚を必要としないと宣言することは、十分に権利の範囲内です。でも、結婚を望む人、結婚している人、実際に男性や女性が必要だと言う人たちを見下したり、批判したり、自分が優れていると感じることは許されません。というのも結局のところ、結婚は生涯の犠牲で、神への和解でもあり、多く人はそれを望まないからです。また、私たちの教えのひとつに、「夫婦平等」がありますが、これに注目したいと思います。すべての結婚が、今日語られる御言葉から恩恵を受けるとしても、二人ともクリスチャンだと公言する結婚です。しかしそれよりも、私たちクリスチャンが、「一

つの肉/一体となる」がどのようなものかを正確に検証することが重要だと思います。この2つの教えは、私たち全員を不快にさせるものだと思います。私たち全員への罪の示しを祈ります。こういう題材が、タブー視されるようになったのはとても悲しいです。「あ～あなたは結婚について話すんだ～」人類の贖罪の次に、これを挙げるべきでしょう。多くの経験豊かなクリスチャンが、結婚生活で、思春期の問題に支配され、阻害され続けています。それが分かりますか？ みんなで襟を正す必要があります。男として、男を上げる必要があります。そして女性の方、ええ、女を上げる必要があります。しかし、私たちは皆、主に覆って頂く必要があります。ですから、主のお許しを頂き、この1節、主が私に明らかにされた、結婚の初期から結婚の終わりまでずっと続く必要ある行動や態度を扱った抜粋を説明したいと思います。まずは、霊的、感情的、肉体的な側面から私たちの関係を見つめ、そして「一体となる」第2部の第二礼拝へと入っていきます。でもこれをするにあたり、逆の順序で行っていきます。最後に、その理由は分かると思います。肉体的な部分に必要な時間を費やし、それから、感情的な側面が満たされる重要性を説明し、それから、霊的側面が満たされるのを説明すると、他のすべてが整います。そういうことで、創世記2章に記されたこの1節について説明しましょう。再度、御言葉をお読みします。

一創世記 2:24-

それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

これは、すごく初歩的に聞こえるのは分かっています。なぜこんなことまで言及するのか？ 多くの人が、これを深刻に受け止めていないのが事実です。それが問題です。なぜならこれは、自分の財産、自分の家など、父や母と離れる以上の事で、それを超えます。この点について、私たちが理解し、取り組むべきことがあります。それは、父や母に対するこれまでの約束を捨て主に対するものとして、妻に対する新しい約束をすることです。その約束の中で、私たちの両親は今、賢明な助言者としての役割を担います。でも結婚生活に関する決定権を持っているわけではありません。皆さん、ついてきていますか？ 私たち親は、このことをもっと本当に理解する必要があります。私たちは、子どもたちの結婚を支配することはできませんし、すべきでもありません。助言する事だけです。子どもの結婚生活を通して自分の結婚生活を追体験しようとするのはまた別の話で、間違いです。それをすると、壊滅的な結果になり得ます。これには世代別生活様式も含まれます。事実、私たち親は、自分の配偶者と一心同体であり続ける必要があります。それを子どもに見せる必要があります。そうすれば、私たちの助言をもっと受け止めてくれるかもしれません。それがうまくいっていることが子どもたちにわかるからです。でも結婚生活が破綻しているのに、私はよく分かっているタイプとの視点で来れば子どもたちはどのように考えますか？「そんなに分かっているのなら、どうして父さんとの間がギクシャクしているの？」「気にしないで、他の誰かから助言を貰うから。」例えうまくいかないことがあっても、良い助言が得られるはずで、私が言いたいのは、子どもたちは見ている事。私たちが正しいことをしていれば、私たちの助言は受け止められます。そうすればその息子は、頼りになる助言、健全な助言を受けて、妻と正しく「一体になる」ことができます。その妻は、自分たちが自分で決断できると知る必要があります、夫が有能で、地に足がついているのが分かります。すると、彼には彼女を導き、守る力があると分かり、彼女はその男性と一緒にいると安心できるのです。そこから彼女の中で生み出されるのは、やはり、その夫に対する強い安心感です。この初歩的な説明をした理由は、大切なことだからです。そのため私たちは皆、自分の人生を吟味し、神の御言葉が語ることと一致しているかどうか確認することになります。私たちは、それに従っていますか？ これまで慣れ親しんできたものに従うのではなく、慣習を断ち切り、キリストに忠実になる。もうひとつ、こ

の一節を見て、「この御言葉は男性に向けられたもので、女性は親との約束を放棄する必要はない。」と主張する女性もいると聞きます。では、もしそうだとしたら、考えてみてください。自らに問いかけることができる、切実なものです。それが本当なら、どうやって夫と妻が一体となるのですか？ ほとんどの方が、これを分かっていることを祈ります。聖書にはこう書いていません。「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、妻とその両親と一体となる。」

違いますよ、ダーリン。そういう仕組みではありません。それは神が仰っていることではなく、意図なさっていることではありません。再度、私たちのほとんどがこれに気付くことを祈ります。しかし、これが分からないのであれば、「詩篇 45 編 10 節」に書かれている事をよく考えて欲しいと思います。御言葉をお読みします。

—詩篇 45 : 10—

娘よ 聞け。心して耳を傾けよ。あなたの民と あなたの父の家を忘れよ。

それを噛みしめてください。この詩篇全体は、救世主とその花嫁の姿を描いています。全員これを学ぶことを勧めます。とてもパワフルで、とてもよく分かります。この書には、今日説明する時間がないほど、花嫁に関する多くの教訓が含まれています。これは救世主と花嫁の視点で書かれているとしても、これは正に神の結婚において、花嫁自身が花婿にどう対応すべきかを表現していると思います。この節は、今朝の箇所記されていることと対（つい）をなすものとも言えるでしょう。でもひとつ違いがあります。神は、この点を非常に重要視され、この節をこう始められたのです。「娘よ 聞け。心して耳を傾けよ。」言い換えれば、「これからあなたに話すことはとても大切なこと。良く聞きなさい。あなたが夫とこの重要な忠誠を結ぶため、あなたの人生において重要な役割を担ってきたすべての人を捨てなければならない。彼らが夫の前にあってはならない。」

これは、人間関係を放棄したり、家に閉じこもり、引きこもり、家族、友人、仲間と関わりを持たず、共同生活を送ることではありません。そういう意味ではありません。これは、自分の人生の再優先順位付けです。一体となるためには、そうしなければなりません。神がこのようにされたのには理由があられます。それが、私たちが取り組むべきことです。夫は、妻が第一です。妻は、夫が第一です。私たちが結婚を祝福されたいのであれば、神が定めたことに逆らわず、ここから始めるのが賢明でしょう。もし私たちの結婚生活が、このように構築されていないのであれば、重要な問題が発生します。まだそうではないとしても。私たち夫と妻は、「一体となる」私たちの自然な生活の中で、一体となるべき肉がまずないのに、一体となることはできません。彼らは人生において、最初から最後まで相手が一番だと間違いなく知るべきであり、また、私たちが一体であることを知り、常に感じなければなりません。夫も妻も両方がです。私たち誰しも、感情があります。私たちはそれぞれ、この「一体となる」を確立する責務があります。繰り返しますが、私たちの「一体となる」は、霊的、感情的、そして肉体的なものでなければなりません。この「一体となる」を実現させるのは、最初に創造されたまさに人間なのです。神の御言葉の権威に基づき、今日の教えの中で証明されるでしょう。ですから、私たち男は、思う存分、男になりることができます。私たちは、自分の力で解決しなければならないことがたくさんあります。幾人かは仰るでしょう。「この学びは、男性バッシングに見える」とか「僕たちはこんなに負担があるんだ」とか。それは、神の御言葉が語ることはありません。あなたは、こんにち嫌なら男である必要がない世に生きています。ですから、この夫としての役割を真剣に考えたくないなら、スカートを買ってください。世があなたを待っていますから。弱い男が多いんですね。情けない限りです。先ほども言いましたが、逆順で取り組むの

で、身体的な一体感から始めます。「創世記 1 章 28 節」神の御言葉をお読みします。

—創世記 1：28—

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

この節は、私たちの関係の身体的側面に最初に取り組もうと思った理由の一部です。留意ください。墮落前（罪が世に入る前）、男は既に神と一体だったのです。皆さん付いてきていますか？ 分かりますか？ そのために、アダムとエバは、霊的にも感情的にもひとつだったと言えます。皆さん、同意しますか？ なぜなら、私が見た彼らへの最初の命令は、「生めよ。増えよ。」だからです。これが3つの内の言わば、最終段階＝身体的なものでした。これは、順番に並べてもほとんど意味がない、詩的な言葉の羅列と見ることもできますが、でもそうするなら、私たちは重大な間違いを犯すと私は心から信じます。私たち男女の関係は、この身体的一体感を最優先事項のひとつとしています。このように見ないのは悲しいことです。何があっても、このことを見失ってはいけません。この気持ちは、どんなことがあっても忘れるべきではありません。なぜなら、私たちは配偶者のもので、配偶者は私たちのものです。互いに自分を捧げ合うべきです。それは、聖書の中の指令です。「第一コリント人への手紙 7 章 3 節～6 節」神の御言葉をお読みします。

—I コリント 7：3—

夫は自分の妻に対して義務を果たし、同じように妻も自分の夫に対して義務を果たしなさい。

—I コリント 7：4—

妻は自分のからだについて権利を持ってはおらず、それは夫のものです。同じように、夫も自分のからだについて権利を持ってはおらず、それは妻のものです。

—I コリント 7：5—

互いに相手を拒んではいけません。ただし、祈りに専心するために合意の上でしばらく離れていて、再び一緒になるというのならかまいません。これは、あなたがたの自制力の無さに乗じて、サタンがあなたがたを誘惑しないようにするためです。

—I コリント 7：6—

以上は譲歩として言っているのであって、命令ではありません。

これはかなりわかりやすいです。でも、一節を明確にする必要があります。触れてはいけないことを 6 節が扱っています。ある人は、使徒パウロがここで語ることを、前のすべての節に適用できるようにし、結婚している人のためのオプションみたいにしようとしています。使徒パウロが語る、私たちの体は互いに属するものであり、一時的な同意で互いに奪い合わないというのは、戒めではなく、一種の提案に過ぎないとか。人間のすることが分かります？ それは使徒パウロが語る事ではありません。ここでの解釈は、祈りや断食などのために性的関係を断つ場合、それは許されることで命令ではないと言う意味です。言い換えれば、これは、決して肉体的な結合を止めると強制する命令では全くありません。祈りと断食の間、離れることを選ばないのなら、そうする必要はありません。ここでパウロは、それを意味しているのです。これは、霊的約束を互いに奪い合ってはいけないという意味でもあります。そのようなことが以前ありましたか？ 私たちは、再び一緒になるため指令があります。誘惑者サタンが、私たちの結婚生活を妨害することがないように。私たちが離れるのは、離れると決めるのは合意の上だという事を忘れてはいけません。どれだけの男女が、霊的奉仕を理由に配偶者を奪っているのでしょうか。私たちが「これで良

い。」と思うなら、すべて間違っています。こうも言うておきます。あなたの関係がこのようなものなら、あなたはサタンに加担し、サタンと手を握り、悪を家に招き入れていることになります。なぜなら、あなたは務めを果たさないからです。このような行動をあなたがしているとしたら、神の御目に適うと本当に思っているのでしょうか。神は、聖霊の力によって、使徒パウロにこの御言葉を書かせられました。パウロは当時、結婚していなかった。パウロは、一度も結婚していないという説もあります。聖書から、彼がこの言葉を記した時、結婚していなかったことがわかります。でも彼は、結婚のこの側面の重要性をも理解していたのです。そうしてこの手紙では、他の使徒たちが使徒としての職務を果たすため、妻を連れて働きを続けていることを語っています。使徒たちは、家族を連れて来ます。結婚している私たち皆がこれが分からないというのは、何という告発でしょうか。ええ、私たちは自分自身に好きなだけ嘘をつくことができます。しかし、神の御言葉は明確で、神の御言葉は矛盾しません。神が「生めよ。増えよ。」と仰ったのに、また戻って何か違うことを進められるはずがありません。この夫婦の一体感は、はっきり言って意義深いです。このようなことをどのように感じ、どのようにアプローチすべきかを忘れてしまったのなら、「雅歌」に戻ってみるのがよいでしょう。JD 牧師は、この書を一節ずつ教えました。ぜひ夫婦で見て、神の御言葉の中にあるものを見てみてください。これをあまり強調せずに、「雅歌」に記された一節を使って、私たちが考えるべき2つの時代を超えた点を指摘したいと思います。「雅歌7章10節」、神の御言葉をお読みします。

一雅歌 7:10一

私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋い慕う。

この箇所注目すべき単語は、「desire/恋い慕う」です。「desire/恋い慕う」に訳されたヘブル語の tesuqah という単語が、聖書で使われるのは、これが3回目で最後です。旧約聖書でこれが使われるのは、3回目で最後です。この指摘する一節をより深く理解するため考えねばならないのは、この言葉の文脈です。何が表現されているのかを確認します。この「恋い慕う」という単語は、「創世記3章16節」にあるように、支配欲を持つことと関連するのがわかります。

「妻は夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」(創世記 3:16)

これがこの単語の意味することによって使われている箇所です。2番目にあるのは、「創世記4章7節」です。

「罪はあなた/カインを恋い慕うが、カインはそれを治めなければならない。」(創世記 4:7)

皆さん分かりますか？ 今や、旧約聖書の中で二度と使われることのない同じ単語が「雅歌」の短くシンプルな一節にあります。ここが全てのポイントです。このシュラムの女性は、この敬虔で親密な愛、思いやりのある覆いの役目に関して、今は夫が自分の愛で彼女を支配するのを望んでいることを表現しています。これは、喜ばしい以外の何物でもない愛の支配で、私たちの結婚生活において、常に期待し、必要不可欠です。質問は、私たちはこれが分かるのか？ 私たちは気づくのか？ 気づくなら、私たちはこれを実行しているのか？ 私たちは、自分たちが年を取りすぎていると思いついでいるのでしょうか？ 神は、ご英知で 私たちをこのように造られました。そして、私の見るところでは男は、妻が望むことが実現すると、妻に知らせる義務があります。妻は、夫がその愛の支配にいることを歓迎する必要があることも知っていなければなりません。そうすれば、彼の必要性も満たされます。すべての必要性が、最初から最後まで、満たされる必要があります。これを悪用してはいけません。神の男性、神の女性なら分かるはずですが。なぜなら、私たちの真の目的は、妻を喜ばせることでも、夫を喜ばせることでもなく、主を喜ばせる事だからです。それが理由です。男性方、それを考えて下さい。私たちがこのように妻に接してい

ないのなら、それは彼女たちにとってどうでしょうか？ 奥様方、あなたがその探求を受け入れないと、それは夫に何を物語っていますか？ この「一体となる」の側面を奪うと、男女の心が乾いてしまいます。あってはなりません。あなたの結婚生活でこのようなことが起こっているのなら、神の御言葉を心に留め、それを正していくことを祈ります。私たち男性は、ソロモン王がこの言葉を残したことが、大変ピッタリだと留意ください。なぜか？ 彼には 700 人の妻がいて、300 人の妾がいるからです。聖書のどこにも、彼女たちに対するソロモンの愛情に文句を言う人はいないのですよ。私たちには妻が一人です。それは告発です。お～ソロモンよ。さらに悪いことに、ソロモン王は、それぞれが分かる感情的なつながりが、彼女たちを覆い、また、落ち着かせたと思われる事。夫婦の場合、肉体的な一体感よりも、感情的な一体感の方が重要です。皆さん、聞きました？ 聞かれたのを願います。それが真実ですから。身体的なことに時間をかけても、感情的なことがなければ何にもなりません。もしそうしても、それほど恵まれた環境とは言えません。これは、夫と妻の間でも同じことが言えますけど、妻たちは非常に独特で、この分野では「特別な配慮」が必要なのは間違いないでしょう。私が言っているのは、適切な感情の状態にないことは、肉体的な状態の私たち一人ひとりに、ある時点で影響を与えます。妻たちはどれほどでしょうか？ 私たち男は、いつまでも妻を学び続けなければなりません。ご存知でしょうか？ 決して終わらないテストです。ー(笑)ー 本当です。途中でクイズが出たりして、決して終わることはありません。私たちはそれを受け入れる必要があります。私たちは、相手の様子を聞かなくても、常に相手の様子が分かる必要があります。私たちは、彼女らが永遠に変化し続ける、非言語コミュニケーションを学ばねばなりません。私は、妻をよく困らせます。彼女は座って何かしているのですが、私はそばに来て、こうします。ペンやパッドを持って来て、「見て、そう研究するぞ。なんと家の中でスイスイ動いているのか！」でも私たちは、そうでなければなりません。「この新しい環境は、彼女の姿勢を大きく変えたな。見た目や眉間のシワでわかるぞ。」

ナショナルジオグラフィックの猫にならざるを得ませんね。それが真実です。なぜなら、そういうものを見たとき、私たちはこう答える必要があります。「何か問題があることがわかるので、話そう。君の話を知りたいから。」それが必要です。私にとってこの点、ただ問題を解決しようとすることによって、男として致命的間違いを犯し得ます。ええ、問題は解決せねばなりませんよ。しかし、私たちはただ出て来て問題を解決してはいけません。男性として私たちには、理解できません。それが壊れているなら、それを直せばいい。という感じです。「でもあなたは、私の話を聞かなかったわ。」壊れたから直したよ。

「でもあなたは、私の話を聞かなかったわ。」男性方、聞いて下さい。それが私たち男性がせねばならないことなのです。私たちはそれに慣れねばなりません。彼女たちの感情を理解せねばならないからです。彼女たちの欲求に合わせねばなりません。この領域に関して、必要な努力をせねばなりません。彼女らの問題に慣れることはありません。決して彼女らの問題に慣れることはありません。直った後も必ず問題に対処する。あなたが問題に対処したことを確認するため。私たちは、常に気をつけねばならないという意味です。不安などについての彼女たちの悩みは、私たちの悩みでもあるのです。私たちは、純粋に、、、私たちが心配していることを わかってもらう必要があります。ー(笑)ー 数週間前に友人たちに話した実例を挙げましょう。屋根が雨漏りします。いいですか？ 男性であれば、まず電話がかかってくるよ。ね。「ねえ、雨漏りしているの。」「OK。帰宅するよ。」さっと家に帰って、修理したい。ダメ。どうするかというと、雨漏りを調べる。いいですか？ 未だ漏っているか？ 漏っていない。よし、緊急ではない。「何があったの？何で分かったの？」「ええ、今日雨漏りしてて。」「その時の様子を詳しく教えて。」

「うん、雨漏りでカーペットが濡れて、そこに送風機をつけたの。そしたら、食料棚の底で小麦粉と砂糖がダメになったの。ネイルに行くことになっていたのに、爪がダメになっちゃって、その予約をキャンセルしたの。」私の話の向かう先が分かります？ この全てが起こったのは雨漏りのせい。分かります？ 修理すれば、この全ては起こらなかった。奥さんはそこに座っていて、「その代償は、あなたは分からない。」そのために何を犠牲にしたのかを感情的に把握し、対応する必要があります。「小麦と砂糖のことは気にしなくていい。明日休んで、お店に行って、貰って来るよ。君がネイルに行ってる間、服もたたんでおくから、行っておいで。足のネイルもしてもらえばどうかかな？」ね？このようにします。－(笑)－

「いいかい、ベイビー。雨漏りを直してもらって、でも、屋根全体を点検してもらおうよ。もう二度と雨漏りしないようにね。」そうやって、説き伏せるしかありませんよ～。もちろん聖書で別の例を紹介させてください。神の人がいわゆる解決をして、悲しいことに妻の問題には慣れっこだったのが分かります。というのも、彼はこの一定の共感を示さなかった。この記述が「第一サムエル記1章」4節から8節にあります。これは、ハンナが不妊で、夫のエルカナがその苦しみを和らげようとしました。しかし、私が聖書で見る限り、彼はそれに慣れてしまっていて、彼女に対して全く共感していません。神の御言葉をお読みします。

－I サムエル 1：4－

そのようなある日、エルカナはいけにえを献げた。彼は、妻のペニンナ、そして彼女のすべての息子、娘たちに、それぞれの受ける分を与えるようにしていたが、

－I サムエル 1：5－

ハンナには特別の受ける分を与えていた。主は彼女の胎を閉じておられたが、彼がハンナを愛していたからである。

－I サムエル 1：6－

また、彼女に敵対するペニンナは、主がハンナの胎を閉じておられたことで、彼女をひどく苛立たせ、その怒りをかき立てた。

－I サムエル 1：7－

そのようなことが毎年行われ、ハンナが主の家の上って行くたびに、ペニンナは彼女の怒りをかき立てるのだった。こういうわけで、ハンナは泣いて、食事をしようとしなかった。

さあ、ここで誰が登場するでしょう？

－I サムエル 1：8－

夫エルカナは彼女に言った。「ハンナ、なぜ泣いているのか。どうして食べないのか。どうして、あなたの心は苦しんでいるのか。あなたにとって、私は十人の息子以上の者ではないか。」

これが分かりますか？「だからあなたは、また食べ物をくれるんですね。あなたは私に、もっと愛があるものを見せてください。しかし、あなたは私と感情的につながっていません。」

彼は、もっと多くのものを提供すれば問題は解決すると考えていましたが、存在感ない提供は何の意味もありません。私はエルカナ、こんにちのエルカナたちにこの考え方は大間違いだと言いたいです。肉体的な痛みは、ものの提供で補うことはできません。肉体的痛みと感情的痛みは連続するもので、逆もしかりだからです。彼女は傷ついていました。そのためには、強い感情的対応と、それに続く自然な身体的慰めが必要で、例えば、一緒に祈る霊的対応が必要です。留意ください。感情的対応がなければ、一緒に祈るといふ発想はありません。これは、私たちの「一体となる」に感情的要素が欠けているとこうなります。

「ローマ人への手紙 12 章 15 節」、神の御言葉をお読みします。

—ローマ 12：15—

喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。

この原則が、私たちの家庭でどれだけ適応するのでしょうか。「ああ、ベティはいつも泣いているから、彼女のことは心配してないんだ。」そうですか。主はそれを、どう思っておられるのでしょうか？ 喜ぶにしても泣くにしても、そういう感情の必要性を満たさなければなりません。そのような感情的必要性は変化するもので、私たちはその変化に適応せねばならないことを忘れないでください。女性ならではの感情のケアとはいえ、男性にも心の支えが必要です。でも、私たちの場合はちょっと違います。なぜなら、私たち男性のほとんどは、特に悪い失敗をした際、妻からの励ましが必要だと思います。行われるはずだったもの、間違った投資、昇進するはずだったのにしなかったこと。挙げればきりがありません。夫として、私たちは、あなたがまだ私たちを信じてくれていると知る必要があります。このような瞬間、私たちはとても弱いです。強力な助っ人が、横にいてくれることが必要です。そう、最高の演出の1つが映画「ロッキー3」。覚えてます？ エイドリアンがビーチにいたときです。私は……皆さんには古すぎますか？ では、説明しますよ。ロッキーは、モヒカンの黒人のミスターT にボコボコにされたばかりです。それで、もう一度戦いたいと思うのですが、彼は落胆しています。そして、ついに辞めたいと言います。しかし妻がきて、彼の元へ行き、そして、深みのある言葉を発し、彼を励まします。ぜひ、その小さな場面をご覧ください。映画の素晴らしい瞬間です。でも、言いたいのは、そういう励ましが必要だということです。聖書的な例ではありませんが、ポイントを掴んでほしいと思います。パワフルで、夫と妻の距離を縮めるような一体感をもたらしてくれます。それが夫が必要とする妻からの励ましです。そんな大変な時だけではありません。その励ましは、夫が喜び、特に主において喜びを感じているときもです。「第二サムエル記 6 章」に記されている事をぜひ考えてみてください。16 節を読み、時間の関係で 20 節と 21 節へ飛ばして読みます。御言葉をお読みします。

—II サムエル 6：16—

主の箱がダビデの町に入ろうとしていたとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていた。彼女はダビデ王が主の前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。

—II サムエル 6：20—

ダビデが自分の家族を祝福しようと戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、今日、本当に威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、今日、あなたは自分の家来の女奴隷の目の前で裸になられて。」

—II サムエル 6：21—

ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで、主の民イスラエルの君主に任じられた主の前だ。私はその主の前で喜び踊るのだ。」

ダビデ王が主の御前で喜んでいるのを励ますどころか、彼女はダビデを落胆させ、彼を軽蔑しました。主にあって彼の喜び故に。お～たくさんの人間関係があって、その人が来て、何か喜びを披露してくれる。で、お美しい妻ときたら、いつも彼にダメ出しをする。

「そろそろ昇進するころだったわね。半年ほど遅かったけど。」「でも私は…私は昇進したよ。」「ええそうね。アルは 2 週間前に昇進したわ。なぜあなたはそんなに遅いのかしら。まあ、全くないより遅い方がマシだけどね。」その男の精神はどうなるのでしょうか。「僕は君にふさわしくないだろうね。」では、頑張る

意味はあるのか？ それができる気が何をすると思いますか？ 潰します。この記述の、衣を脱ぐというのは、王衣のことですよ。ダビデは、自分を一般的にし、「私も主であって、皆と一緒に喜ぶ。私たちの間に違いはない。」それだけのことでした。ミカルは王を愛していて、神の人を愛してはいなかった。地位だけ。私たちはここから教訓を得ることができます。男女の神への愛と喜びは、常に励ましたからです。もし、誰かが主に対して持っている喜びをうらやむ人がいたら、自分に質問してみる必要がありますね。なぜあなたにはないのですか？ 限定して与えられるわけでもないのに。苦い思いを広めるのが好きな人もいます。私は苦い思いにアレルギーがあるんですよ。いろいろと勃発してしまうんです。私たちは、クリスチャンとして主の喜びを切望すべきです。私が神の男性で、神への熱意があり、妻が神の女性で、神への熱意があるのなら、私たちは「一体になる」以外ありません。なぜなら「一体になる」以外のものが、私たちを引き離します。それが問題です。これは、クリスチャンのカップルとして非常に重要な、「一体となる」の最後（3つ目）の領域へと繋がります。それが、霊的一体ですええ、そうです。

私たちは生涯を通じて霊的に同じページにいる必要があります。神の男性として、私たちは家庭で霊的リーダーにならなければなりません。肉体的な意味で行うことが、霊的な意味で行うことを上回ると考える人がいるなら、欺かれているとしか言いようがありません。神の女性にとって、神の男性が神のことに関してリーダーであることほど安心できることはありません。なぜならその女性は、自分の男性がすべてのことを主に従って行っているなら、自分は大丈夫だと知っているからです。同じことが男性にも言えます。彼が、神の女性が主に従ってすべてのことを行っているを知っていれば、その女性は生涯、彼を苦しめることはないと思っています。事実、私たちは神に近づけば近づくほど、互いに近づくことができます。この「一体となる」の属性は、第一礼拝で話す最後の属性ですけど、これは、私たち全員が順番に、正しく理解しなければならない最初のものです。御心なら、第二礼拝で取り上げます。ではここで、パート1を終わります。デイビッド、上がってきて賛美で祝福してください。次の礼拝では「エペソ人への手紙5章」を続け、最終的に、私たちの地上の結婚がまず世に示すべき完璧な一体感で締めくくります。ご起立ください。祈りましょう。

お～天のお父様。あなたの真理の御言葉に感謝します。それが私たちに必要です。あなたがこれからもあなたの御言葉を用い、私たちの心と体に染み渡らせてくださることを祈ります。そうすれば、私たちは外に出て、あなたの御言葉に従って生き、そのために努力することができます。あなたは私たちにそうするよう召されていて、あなたが私たちの中に入れ、ご支配されることで、御霊を悲しませないよう私たちはあなたの聖霊の力によってのみそれが可能です。ですから主よ、そうなさってください。あなたがそうして下さる必要があります。そうすれば、私たちはあなたの御言葉とあなたのご方法の模範、管理者となれます。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝し、あなたを賛美します。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7